

原子力対策

特別委員会

令和7年9月19日に委員会を開催し、次のとおり説明を受けました。

1 GX2040ビジョン・次世代原子炉の状況について

経済産業省資源エネルギー庁
原子力立地政策室

利根川室長

○GX2040ビジョン

脱炭素社会と産業振興の両立を目指す国家戦略

○次世代原子炉の状況について

安全性を大前提に原子力発電所の再稼働を進めつつ、次世代革新炉の開発・設置など取り組みを進める必要がある。

2 浜岡原子力発電所周辺環境放射能調査結果について

静岡県環境放射線監視センター

若松所長

令和6年度調査では、浜岡原子力発電所からの環境への影響は認められなかった。

3 技術力の維持向上・継承に向けた取り組みについて

中部電力(株)

2011年に浜岡原子力発電所が停止して以降、運転している原子力発電所での業務経験がない発電所員が約4割強いことにより、知識・技能の維持・継承のために、次のとおり取り組んでいる。

○再稼働する同型炉（女川原発）への運転員等の派遣

○プラント起動前に行う系統機能試験の経験及びノウハウの継承等

	根 拠	内 容
GX2040 ビジョン	GX推進法	・脱炭素投資を促すため、2040年頃の目指すべきGX産業構造、GX産業立地政策の方向性を提示 ・カーボンプライシングの具体策などGX市場創造等
エネルギー 基本計画	エネルギー 政策基本法	・エネルギー政策についての今後の方向性 ・2040年度のエネルギー需給構造（再エネや原子力などの比率（電源構成）、エネルギー自給率など）等
地球温暖化 対策計画	地球温暖化 対策推進法	・すべての温室効果ガス（フロンなど非エネルギー起源の温室効果ガスを含む）の排出削減の取組 ・新たな排出削減目標（NDC）等

GX2040ビジョン、エネルギー基本計画、地球温暖化対策計画の位置づけ

中長期計画共創

特別委員会

令和7年9月19日に委員会を開催し、牧之原市御前崎市広域施設組合が作成した「焼却施設に関する調査研究会報告」について、市民課長及び環境保全センター所長から説明を受けました。

○調査研究の目的

焼却施設は供用開始から32年が経過し、老朽化が進んでいるため毎年高額の施設修繕費を計上しており、構成2市の財政状況を考慮し施設の在り方について考えていくことが重要となっている。そのため、コスト・経済性・持続性・実現の可能性などを検証し、構成2市にとって最善の選択を模索し、具体化の方向性を導き出すことを目的とする。

○総論（調査研究会としての最善策）

静岡県が策定したマスタープラン（ケース3）に従い進めていくことが、構成2市だけでなく近隣市町にとっても将来的なごみ処理問題の解決、安定処理につながる。

なお、マスタープランへの移行期間については、いかにコストを抑えるかが重要であり、既存施設

の修繕や外部搬出等の検討が必要である。修繕した場合には、他市町の可燃物を受け入れするなどして収入を増やし分担金の削減を目指すことが条件となる。

ケース	期 間	広域化範囲
ケース1	現 在	御前崎市・牧之原市の一部（旧相良町）
ケース2	令和4年度～令和13年度 （計画期間）	御前崎市・牧之原市・吉田町
ケース3	令和14年度～令和34年度 （長期的な展望）	御前崎市・牧之原市・吉田町・島田市・川根本町
ケース4	令和34年度～ （長期的な展望）	御前崎市・牧之原市・吉田町・島田市・川根本町・藤枝市・焼津市・静岡市

静岡県一般廃棄物処理広域マスタープラン